

2022年度（令和4年度）保育科 カリキュラム・マップ

カリキュラムとディプロマポリシーとの対応関係	<p>I. 豊かな倫理観や人間性、コミュニケーション能力を有し、責任ある行動ができる教養を身につける（社会人基礎力）</p> <p>a 建学の精神を理解する b 保育者・社会人としての責任ある言動ができる c 他者認識や自己認識の力を向上させ、他者の立場で考え行動できる d 自分の考えをうまく伝えたい、他者の思いを理解したいという意欲により表現方法を工夫し、人とかかわることができる</p> <p>II. 保育に関する専門的知識、技術・技能の習得に努める（保育の知識・技術・技能）</p> <p>a 子どもの心身の発達過程、健康、保健衛生、安全について理解する b 保育の内容や指導法を理解し、保育実践の技術・技能を習得する c 保護者支援に関する知識、技術・技能を習得する d 社会の仕組みや幼児教育・保育に関わる制度について理解する</p> <p>III. 保育の専門家としての実践力を鍛える（保育の実践力）</p> <p>a 一人ひとりの子どもの特性や内面を理解し、共感をもってかかわることができる b 子どもを取り巻く環境を理解し、職場内で、また保護者や関係機関と連携し、より良い環境の構築に努めることができる c 自ら保育を計画し、実践し、それを振り返り、次の課題を見つけて努力できる d 多様化・高度化する社会状況に応じた保育を実践しようと努める</p> <p>IV. 生涯にわたって保育への関心と学習意欲をもち、保育の発展に貢献しようとする意欲・態度を養う（キャリア形成力）</p> <p>a 社会的課題や時事問題に関心をもち、社会の変化や保育ニーズに対応した保育、子育て支援を目指す b 自ら積極的・主体的に行動しようという意欲をもち、課外活動やボランティア活動などにチャレンジする c 子どもの生活の連続性、発達の連続性を重視した保育を目指し、保育の質の向上に努める</p>
------------------------	---

科目名	担当者	科目の到達目標	ディプロマポリシーとの関連			
			I 社会人基礎力	II 専門的知識・技能	III 保育の実践力	IV キャリア形成力
キリスト教概論Ⅰ	相原 太郎	① 本学の建学の精神とその起源であるキリスト教そのものについて理解を深める。 ② キリスト教について学ぶことが、保育や対人ケアを学ぶ上で重要な基礎となることを認識する。 ③ 聖書の教えが、自らの暮らしや生き方、他者との関わりを考える上で、大きな力となり道しるべとなりうることを実感できるようにする。	○			
キリスト教概論Ⅱ	村田 康常	① 本学の建学の精神とその起源であるキリスト教について知り、自分の言葉で語れるようになる。 ② キリスト教について学ぶことが、保育や対人ケアを学ぶ上で重要なことを知り、本学でのすべての学修の基礎にキリスト教的な精神があることを感じられるようになる。 ③ 聖書の教えが、自らの生き方を考える上で、他者との関わりの中でも、大きな力となり道しるべとなることを実感できるようにする。 ④ 絵本や児童文学との結びつきのなかでキリスト教を学ぶことを通じて、キリスト教保育などの現場において子どもたちにその学びを語り伝えたりするための準備を整える。	○			
宗教学（聖書と人間）	相原 太郎	① 多くの幼児教育の建学の精神となっているキリスト教を始めとする宗教伝統について基本的知識を得る。 ② 外国にルーツを持つ園児や保護者など、異なる背景を持つ人々の価値観を理解できるようにする。 ③ 現代社会が抱えている様々な問題について、一般常識だけにとらわれず、自分自身の暮らしや生き方に関連する事柄として、自由にかつ真摯に向き合う視点を養う。	○			
日本国憲法	鈴木 晃	① 人権を中心とした憲法的知識が日常生活の中で、具体的にどのような意義をもつのかを理解できるようにする。 ② 形式論として憲法を理解するのではなく、条文の意味や学説・判例などを自分や社会とのつながりの中で思考し理解することによって、国のあり方や、人権の正しいあり方などについて、憲法を機軸にして健全な価値観をもてるようになる。 ③ 社会現象について、感情に流されることなく、論理的に法律論を展開できるようなる。 ④ 他者の意見を尊重しつつ、保育者としての自覚の下で、その主張の合理性を規範論としての憲法を念頭において議論できるようにする。	○			○
倫理学（生きることの意味）	村田 康常	① 倫理思想の歴史を理解する。 ② 自己と他者の存在について意識的になり、生きる意味について自分自身の考えをもつ。 ③ ケアの倫理を学ぶことを通じて、保育者の倫理、ケアする者の倫理についての理解を深める。	○			○
情報機器の操作	高瀬 慎二	① 情報機器の基礎的な知識や操作方法、情報機器を用いて何ができるのかを学ぶ。 ② 文章や図表の作成、表計算、プレゼンテーション資料の作成、インターネット上の情報の検索や収集・整理を通して、考えを表現する手段を習得する。		○		
英語コミュニケーション	三浦 紀美代	① 保育の現場に必要な英単語＆フレーズを使いこなせるようになる ② 保育英語検定3級レベルに到達する ③ サブテキストを使って日常や保育の現場で使用できる英会話や英語アクティビティを行えるようになる	○	○	○	○
生涯体育論	成宮 宏俊	① 人間の生きる過程について心身の発育・発達の視点から説明できるようにする。 ② 人間が生きる上で、なぜ身体活動が必要になるかを明確に理解し説明できるようにする。		○	○	
スポーツとエクササイズ	菊池 理恵	① 個人・集団での体づくり、スポーツ活動を意欲的に取り組み、体を動かすことができるようになる。 ② 五感をつかったグループ課題について、コミュニケーションをとりながら、解決することができるようになる。 ③ 体をつかった運動遊びや簡単なゲームの指導やができるようになる。		○		
保育職論	榎戸 裕子	① 保育者の専門的な職務内容や資質・能力を理解する。 ② 子どもを取り巻く状況を学び、保育者としての役割を理解する。 ③ 子育て支援における役割と求められる姿勢を学ぶ。 ④ めざす保育者像を明らかにする。	○			○
社会福祉	長谷中 崇志	① 社会福祉における子ども家庭支援の視点・考え方を身につける。 ② 社会福祉の基本理念を理解する。 ③ 現代社会における社会福祉制度の役割・機能を理解する。 ④ 社会福祉の法制度と提供主体について理解する。 ⑤ 社会福祉政策の現状と課題を理解する。		○		
子ども家庭福祉Ⅰ	長谷中 崇志	① 現代社会での子ども家庭を取り巻く状況について理解し、説明できる。 ② 子ども家庭福祉の歴史的展開を理解し、説明できる。 ③ 子ども家庭福祉の理念を理解し、説明できる。 ④ 子ども家庭福祉の法制度や提供主体について理解し、説明できる。 ⑤ 子ども家庭への支援方法について考えることができる。		○		
子ども家庭福祉Ⅱ	大崎 千秋	① 児童福祉施設、児童福祉機関等の相談、援助実践事例の読み解きができる。 ② 事例を通して子どもの人権擁護について理解ができる。			○	
保育原理	柴田 智世	① 保育の意義を考え、「保育とは何か」を明確に述べるようにする。 ② 保育の全体構造を理解し、子どもの理解や保育の方法、指導計画の作成などについて学ぶ。 ③ 子どもの発育過程に即して、総合的に指導や援助を行うための基礎的な理解を深める。		○		

科目名	担当者	科目の到達目標	ディプロマポリシーとの関連			
			I	II	III	IV
			社会人基礎力	専門知識・技能	保育の実践力	キャリア形成力
乳児保育Ⅰ	後藤 由美	① 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び制度や事業について理解する。 ② 年齢別の子どもの発達の特徴と保育内容・保育方法を理解する。 ③ 健康・安全管理等について学ぶ。 ④ 乳児保育に求められる連携・協力について理解する。 ⑤ 乳児保育の今後の課題について学ぶ。		○		
乳児保育Ⅱ	後藤 由美 植松 愛	① 乳児保育の一日や生活の援助を学び実践できる。 ② 事例から保育者と子どもとの関係性を学び説明できる。 ③ 遊びのしどろ・援助を学び、指導計画を作成し模擬保育を実践できる。 ④ 保護者との連絡方法を学び説明できる。		○	○	
社会的養護Ⅰ	成瀬 英雄 大崎 千秋	① 保育士の働きについて、児童福祉入所施設を通じて理解できるようになる。 ② 各児童福祉入所施設を学び、制度や中身の現状と課題と今後の展望について理解できるようになる。 ③ こどもの権利擁護の捉え方や保護者との関わり方について、基礎的な援助方法を身につけることができるようになる。 ④ 保育士としての考え方を、演習課題を通じて意見にまとめ、時には自分の考察を発表して他の人の考察との相違と学びを深めることができるようになる。		○	○	
社会的養護Ⅱ	成瀬 英雄 大崎 千秋	① 児童福祉施設の実情を学び、おかれてる課題と解決に向けた取り組みへの理解ができる。 ② 児童福祉施設の入所児と保護者への援助方法を学び、保育現場への応用に生かす方法を知る。 ③ 演習事例を通じ自分の捉え方や考察をまとめ発表でき、ある程度の目安をもって施設実習に臨むことができるようになる。 ④ 保育士としての視点により良き援助者の基礎を身に付けられるようになる。		○	○	
子育て支援	長谷中 崇志	① 相談援助技術(ソーシャルワーク)の体系を理解する。 ② 相談援助の原則を理解する。 ③ 保育・社会福祉専門職に求められる価値・倫理を理解する。 ④ コミュニケーション技法(言語/非言語)を選択し、活用できるようになる。 ⑤ コミュニティワークの基本的技法を身につける。		○	○	
発達心理学	片山 伸子	① 乳幼児期の発達理解、乳幼児期の重要性を理解する。 ② 発達理解に基づく乳幼児への援助を考えられるようになる。 ③ 自分自身の発達を理解し、現在の発達課題を知る。		○		
幼児理解と教育相談	小嶋 玲子 植松 愛	① 幼児理解の意義を理解する ② 幼児のつまずきを様々な視点から理解できる ③ 幼児理解に基づいた適切な援助方法について考えることができる ④ 幼児理解や保護者理解の前提としての自己理解を深める ⑤ 幼児や保護者への援助・支援に必要な心理的援助の技術が使える	○	○		
子どもの保健	山脇 眞弓	① 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ② 子ども心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ③ 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	○	○	○	○
子どもの健康と安全	山脇 眞弓	① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ② 保育における衛生管理や危機管理、事故防止及び安全対策等について具体的に理解する。 ③ 子どもの健康及び安全管理にかかわる組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等を具体的に理解する。	○	○	○	
子どもの食と栄養	加藤 志都	① 栄養とは何か、といった基本的な栄養に関する知識を習得する。 ② 習得した知識を活かし、保育士としてまずは自分自身の食生活を管理した上で、子供や保護者に対して適切な食育を行える保育士を目指す。 ③ 食べ物に興味を持てる子どもの育成に向けた食育を行えるように、各年齢・月齢の食の特徴や問題点などを把握した上で、食育の計画を立てられるようになる。 ④ 子供の個々の食生活の問題点を探り、保護者に向けて保育の一環として食のアドバイスを行えることを目指す。	○	○	○	○
子ども家庭支援論	野崎 真琴	① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。		○		
子ども家庭支援の心理学	小嶋 玲子 植松 愛	① 生涯発達の流れを理解し、社会的なかかわりの中で人間は成長することを理解する。 ② 家庭、家族の役割を理解し、現代社会の中での課題、問題がわかる。 ③ 家庭への支援を考えることができる。 ④ 子ども・保護者の精神保健とその課題について理解する。		○		
教育原理	青山 佳代	① 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ② 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ③ 教育の制度について理解する。 ④ 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ⑤ 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。		○		
教育心理学	片山 伸子	① 子どもに対する援助を心理学的な観点から考えることができる。 ② 話し合いを通じて、子どもに対する多様な視点を知る。 ③ 自分のものの見方の特徴や学びの特性を知る。		○		
教育課程論	柴田 智世	① 教育課程、全体的な計画及び様々な指導計画の意義について理解する。 ② 子ども理解に基づいた指導計画を作成し、模擬保育を行うことができる。 ③ 省察、評価、改善による評価の意義について理解する。			○	
幼児教育方法論	榊原 菜々枝	① 幼稚園や保育所等における保育方法の理論と実際を学ぶ。 ② 教育・保育の評価や振り返りの方法について学び、実践する。 ③ 情報機器を自在に利用し、幼児教育の中で活用できるようになる。		○	○	
特別支援教育	小嶋 玲子	① 障害児保育・特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ② 特別な支援を必要とする子どもの特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ③ 障害児および障害はないが特別な支援を必要とする子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ④ 障害児および障害はないが特別な支援を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤ 障害児および障害はないが特別な支援を必要とする子どもの保育に関する現状と課題について理解する。		○		
児童文化	関 綾子	① 保育者として子どもの生活文化や遊び文化を、子どもへ継承しようすることができる。 ② 子どもに遊びの醍醐味を伝えられる実践力を身につける。 ③ 生活の中で文化の扱いを工夫し、実践する力を身につける。			○	
子どもの音楽基礎	扶瀬 絵梨奈	① 正確な読譜力をもって演奏できる。 ② 子どもへの歌(季節・園生活)を数多く知る。 ③ 基礎的な伴奏技術を身につける。		○		

科目名	担当者	科目の到達目標	ディプロマポリシーとの関連			
			I 社会人基礎力	II 健康・身体・心身の健康	III 保育の実践力	IV キャリア形成力
幼児の音楽表現基礎	長井 典子	① 音楽の基礎知識(楽譜の読み方)を理解する。 ② 正しい発声、音程の練習など、ソルフェージュ的要素を習得する。そして、子どもがうたう歌について探る。 ③ 子どもが用いる楽器の演奏方法、扱い方を習得する。また、楽器を用いた演奏に慣れる。 ④ 音楽の基礎知識(コードネームによる伴奏)について理解する。		○	○	
音楽Ⅱ	扶瀬 絵梨奈 長井 典子	① 子どもの歌の弾き歌い曲を数多く演奏できる。 ② 弾くことや歌うことを楽しむことができる。 ③ 保育現場を想定した実践的な伴奏技術と、うたう活動の展開方法を身に付ける。		○		
幼児の体育Ⅰ	野田 さとみ	① 身体運動の発達の流れと遊びの関連を理解する。 ② 子どもの発達段階にふさわしい運動遊びを選択することができる。 ③ 運動遊びの指導における配慮事項を理解し、指導案の立案及び実践ができる。		○		
幼児の体育Ⅱ	菊池 理恵	① 乳幼児期における運動発達について理解し説明できるようになる。 ② 子どもたちの発達を促すための運動について実践し、援助の方法を理解できるようにする。 ③ 自分自身が運動する楽しさについて理解し、自ら実践して指導し実践できるような指導力を身に付ける。		○		
幼児と人間関係	神原 菜々枝	① 乳幼児期の人との関わりの育ちについて理解する。 ② 領域「人間関係」のねらい内容を理解する。		○		
幼児と環境	豊田 明子	① 保育における環境の重要性と意味を、幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいて説明できる。 ② 領域・環境のねらいと内容を理解し、その「ねらい」を達成するための保育者の具体的な援助について、説明することができる。 ③ 子どもの主体性を引き出す環境構成の理論について学び、環境構成を支える知識や技術を習得し、情報機器を用いた教材作りや情報発信ができる。		○		
幼児と環境	榎戸 裕子	① 保育における環境の重要性と意味を、幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいて説明できる。 ② 領域・環境のねらいと内容を理解し、その「ねらい」を達成するための保育者の具体的な援助について、説明することができる。 ③ 子どもの主体性を引き出す環境構成の理論について学び、環境構成を支える知識や技術を習得し、情報機器を用いた教材作りや情報発信ができる。		○		
幼児と言葉	関 綾子	① こどもの発達とことばについて理解している。 ② 保育者として自身の言語生活を見直すとともに、こども・保育者・保護者に対する適切な言語使用を身につけている。 ③ こどもにとっての児童文化財の意義とその理由を理解し、発達段階に応じた文化財の選定ができる。	○			
幼児と表現	若杉 雅夫 長井 典子	幼児の素朴な表現を受け止め、それを促す方法を考える。保育の実践的な学びを通して、子どもの発達の過程を理解し、領域「表現」を、身体・造形・音楽の分野から見つめる。そして、その技能を身に付ける。 ① 保育者として五感を使った表現力を磨く。 ② 生活を通して様々な素材に触れ気付き、それを用いる技術を身に付ける。 ③ 自ら表現することを楽しみ、その楽しみ方を知る。 ④ 他を認め協働することによって、さらに充実した表現活動を行う。 ⑤ 自ら得た知識技術を、子どもたちと展開する力を身に付ける。		○	○	○
保育内容指導演 総論	青山 佳代	① 保育の基本的な考え方と3法令それぞれに示されている内容を関連づけて、保育内容の全体像を理解する。 ② 保育内容の歴史の変遷を理解する。 ③ 保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 ④ 保育の多様な展開について具体的に理解する。		○		
保育内容指導演 健康	菊池 理恵	① 乳幼児期の子どもの発達の心身の健康・運動について理解し、説明できるようになる。 ② 領域「健康」の内容やねらいや、保育者として自らの健康だけでなく子どもの健康について理解できるようになる。 ③ 子どもの基本的習慣を理解し、適切な関わりができるように知見を高める。 ④ 子どもの事故や危険について理解し、安全な環境について理解する。		○	○	
保育内容指導演 人間関係	豊田 明子	① 自己分析をおこない、自身の言動についての傾向を言語化し、客観視することができる。 ② 領域「人間関係」のねらいと内容について、説明することができる。 ③ 子ども心の発達に関する知識を身に付け、育ちの見直しを持つことができる。		○	○	
保育内容指導演 言葉	山本 聡子	① 乳幼児期の言語発達について理論的に理解する。 ② 領域「言葉」のねらいと生活における発達の道筋を系統的に把握する。 ③ 豊かな言葉を身に付けるために必要な保育者の役割を学び実践に活用する。		○		
保育内容指導演 環境	後藤 由美	① 領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、領域「環境」に係わる具体的な指導場面を想定した保育の構造、指導演を身に付ける。		○	○	
保育内容指導演 表現	若杉 雅夫 長井 典子	① 幼稚園教育要領の、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ② 幼児に育みたい資質や能力について理解し、造形、身体、音楽の様々な表現あそびを通して、具体的な指導・援助方法を学ぶ。 ③ 幼児の発達過程をふまえ、幼児に対する具体的な指導場面を想定した指導演を作成し、保育を展開できるだけの力を身に付ける。		○	○	
保育内容指導演 表現Ⅱ	若杉 雅夫	① 幼児の造形表現(絵画)の発達過程を熟知する。 ② 幼児の適齢に合わせた造形遊びを選択することができるようになる。 ③ 幼児の適齢を考えた造形遊びの保育案の作成ができるようになる。		○	○	
保育内容指導演 キリスト教保育	柴田 智世	① キリスト教保育を、一般の保育の中にも生かすことができるようになる。 ② キリスト教保育は、「いのち」と深くかかわっていることを知る。 ③ クリスマスの行事に参加することを通して、クリスマス意義を理解する。		○		
保育基礎演習	保育科専任教員	① 名古屋柳城短期大学保育科における2年間の学修について理解し、見直しを持つ。 ② 免許・資格に必要な実習について理解し、実習の基礎的な準備を行う。 ③ 様々な保育教材に触れ、実習において実践する力を身に付ける。	○	○		
教職実践演習(幼稚園)	保育科専任教員	他のあらゆる授業や実習などを通して学んだことを総合的に活かしながら、さらに保育者として必要な知識、技術、態度等について、テーマの中で自ら課題を設定し、以下の4つの能力を含む保育者に必要な資質を高めていく。 ① 使命感や責任感、教育的愛情の自覚 ② 社会性や対人関係の能力 ③ 幼児理解や学級経営等に関する能力 ④ 保育内容の指導力	○	○	○	○
保育実習Ⅰ(保育所)	保育実習担当	① 保育所の基本的な役割や機能を理解し、観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 ② 保育士の業務内容と職業倫理を理解し、積極的かつ向上心をもって課題に取り組むことができる。 ③ 実習を通じて保育者としての自分自身を分析し、自己の今後の学習課題を明確にすることができる。			○	

科目名	担当者	科目の到達目標	ディプロマポリシーとの関連			
			I	II	III	IV
			社会人基礎力	専門知識・技能	保育の実践力	キャリア形成力
保育実習指導 I (保育所)	野崎 真琴 菊池 理恵 後藤 由美	①「事前指導」において、実習の目的や方法など実習全体にかかわる基礎的な事項、保育所の役割や意義など実習園の、実習記録の記入方法、実習時の留意事項などを理解する。 ② 保育所実習で学ぶべき内容を踏まえたうえで、自己課題を持って実習に臨む。 ③「事後指導」において、実習を振り返り課題に対する自己評価をすることを通し、次の実習に向けての課題を明確化する。		○		
保育実習 I (施設)	施設実習担当	① 子ども・家庭が抱える生活課題を理解する。 ② 児童福祉施設等の社会福祉施設の役割・機能を理解する。 ③ 児童福祉施設等の社会福祉施設における保育士の役割と業務内容を理解する。 ④ 他職種の役割と業務内容を理解する ⑤ 保育士に求められる価値・倫理を理解する。		○	○	
保育実習指導 I (施設)	大崎 千秋 植松 愛 成瀬 英雄	① 施設実習の目的と保育士が施設実習を行う意義を理解する。 ② 児童福祉施設等の社会福祉施設の種別を説明することができる。 ③ 実習記録の基礎的な書き方を習得する。 ④ 事後学習において自己課題を明確にする。		○		○
保育実習 II	保育実習担当	① 保育所の役割や機能を体験的に理解し、主体的に実践することができる。 ② 明確な視点や課題を持って子どもを観察し必要な関わりを行うなど、保育に必要な実践力を身につける。 ③ 子どもをとりまく保育の現状を理解し保育士の職務の多様性・重要性を理解する。 ④ 向上心を持って実習に取り組み、自らの課題を発見する。			○	
保育実習指導 II	野崎 真琴 菊池 理恵 後藤 由美	①「事前指導」において、実習目的や方法など実習全体に関わる基礎的な事項、実習園の特徴や保育目標、実習記録や指導計画の記入方法、実習時の留意事項などを理解する。 ② 保育実習 I の反省を踏まえた II における自己課題を明確化し実習に臨む。 ③「事後指導」では、実習の反省点を踏まえて自己課題の振り返りの具体的な分析から、本学実習での学びを通してそれぞれの課題を認識する。		○		
教育実習 I	教育実習担当	① 子どもの遊び、行動、保育の流れ、教師の配慮や援助を観察し、それらを整理して記録が書けるようになる。 ② 幼稚園の教育目的や目標、運営方針や園務分掌・保育のあり方、園の安全への配慮を理解する。 ③ 実習生として意欲的に取り組み、教師としての資質を高めるために達成課題を設定し、それに向けて努力する。			○	
教育実習法 I	柴田 智世 榎戸 裕子 榎原 菜々枝	① 実習の目的や方法、実習における心構えや注意事項など、実習全体にかかわる基礎的な事項を理解する。 ② 実習記録、実習日誌の書き方を理解する。 ③ 実習を振り返り、今後の自己の課題を明確化する。		○		
教育実習 II	教育実習担当	① 教育課程と実際の保育との関連について理解し、部分実習や研究保育を行うための指導計画の作成ができる。 ② 教材研究に取り組み、子どもが主体的に保育活動に参加できるよう配慮し、実践することができる。 ③ 意欲的にかつ熱意をもって実習に取り組み、責任ある態度で各種提出物の作成・提出ができる。			○	
教育実習法 II	柴田 智世 榎戸 裕子 榎原 菜々枝	① 教育実習IIの目的・内容・方法、実習における心構えや注意点など、実習全体にかかわる基礎的な事項を理解する。 ② 指導計画の立案方法について理解する。 ③ 保育における教材研究の方法について理解する。 ④ 実習を振り返り、今後の自己の課題を明確化する。		○		
子どもと絵本 I	保育科専任教員	本科目は、「認定絵本士養成講座」として開設されている科目である。本講座において、「子どもと絵本 I」(1年前期)、「子どもと絵本 II」(2年前期)の2科目を履修し、合計4単位を修得することにより、認定絵本士の称号を得ることができる。 認定絵本士に認定された後は、絵本に関して学んだ知識や技能を活かし、保育の現場や地域で絵本の魅力や可能性を伝え、子どもの読書活動を充実させる役割を担うことが期待される。		○		
子どもと絵本 II	保育科専任教員	本科目は、「認定絵本士養成講座」として開設されている科目である。本講座において、「子どもと絵本 I」(1年前期)、「子どもと絵本 II」(2年前期)の2科目を履修し、合計4単位を修得することにより、認定絵本士の称号を得ることができる。 認定絵本士に認定された後は、絵本に関して学んだ知識や技能を活かし、保育の現場や地域で絵本の魅力や可能性を伝え、子どもの読書活動を充実させる役割を担うことが期待される。		○		